

[参考事項]

新技術名： エダマメにおけるダイズサヤタマバエの発生生態（平成26～28年）

研究機関名 農業試験場 生産環境部 病害虫担当
担 当 者 菊池英樹・高橋良知

[要約]

エダマメを加害するダイズサヤタマバエの成虫飛来は遅くとも6月下旬と考えられる。エダマメ成熟期の被害英率は、開花日が比較的早い作型では低く、開花日が遅くなるにつれ増加する傾向がみられ、開花日が8月3半旬以降の晩生作型では概ね50%を超える。

[普及対象範囲]

県内エダマメ生産者

[ねらい]

近年、秋田県内のエダマメ栽培においてダイズサヤタマバエによる被害が増加しており、収穫皆無となる事例も報告されるなど生産振興上の課題となっている。

このことから、防除対策を検討する上で重要となる本県のエダマメにおけるダイズサヤタマバエの発生生態について明らかにする。

[技術の内容・特徴]

- 1 エダマメの開花日が6月4半旬の極早生作型において成熟期に被害英の発生が確認され、本県において遅くとも6月下旬にはダイズサヤタマバエ成虫が飛来していると考えられる（図1、図2、図3）。
- 2 開花日が早い作型ではダイズサヤタマバエによる被害英率が比較的低く、開花日が遅くなるにつれ被害英率が高くなる傾向がみられる（図3）。
- 3 試験年次及び試験場所により被害英率の増加程度は一定ではなく、年次間差や場所による違いが大きい（図3）
- 4 開花日が7月3半旬には被害英率が20%を超える場合があり、同じく7月6半旬には70%を超える場合がある（図3）。
- 5 開花日が8月3半旬以降の晩生作型では被害英率が概ね50%を超える（図3）。

[成果の活用上の留意点]

- 1 本成果のデータは、本県における一般的なエダマメ作型に従い主要品種を同一ほ場内に段階的には種し、無防除条件で開花日と成熟期の被害英率を調査したものである。
- 2 試験場所および播種時期について、2014年は試験場内で5月20日～7月10日に主要な極早生～晩生品種を延べ10回播種し、2015年は試験場内で4月30日～7月8日に同じく延べ24回、2016年は秋田市雄和種沢現地圃場で5月13日～7月4日に同じく延べ21回、能代市槐現地圃場で2016年5月26日～7月7日に同じく延べ13回播種した。
- 3 本成果を防除実施の有無を判断する際の参考とする。防除方法は秋田県農作物病害虫・雑草防除基準を参照する。

[具体的なデータ等]



図1 ダイズサヤタマバエ成虫



図2 ダイズサヤタマバエによる被害莢

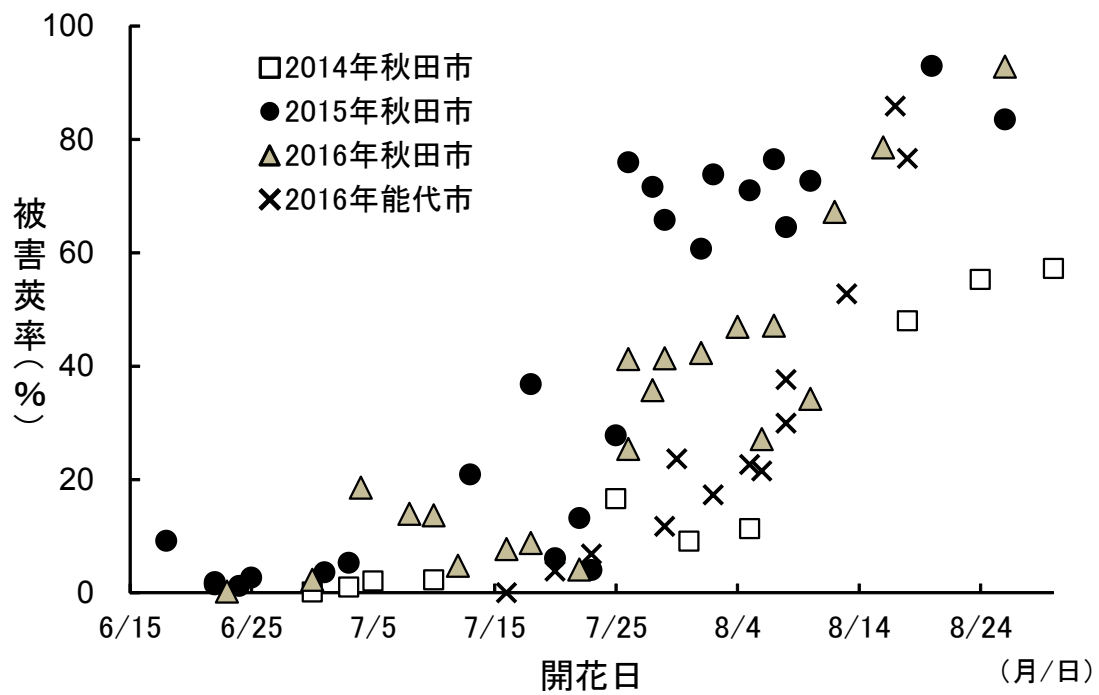


図3 エダマメ開花日とダイズサヤタマバエによる被害莢率の関係

[発表論文等]

なし